

Title	第5回物性小委員会議事録
Author(s)	
Citation	物性研究 (1978), 30(3): 113-118
Issue Date	1978-06-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/89557
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

第5回 物性小委員会議事録

日 時：1978年3月30日 13：00～19：30

場 所：東北大金研会議室

出席者：横田，豊沢，斎藤，真隅，三輪，山田，遠藤，
金森，佐々木，伊達，芳田，重松，目片

報告事項

1. 委員長報告（横田）

物研連へ共同利用予算の増額について申入れをしたこと（1月14日），物小委選出規定の改正については理論，実験が各5名，10名を下まわらないように選出する，物研連委員を追加することができるという二点とも可決されたことが報告された。委員構成を決定する主体が不明確であるとの白鳥百人委員の疑問にたいして，それが物小委であることが確認された。

選挙関係では物性研共同利用施設専門委員（市村，佐々木，長岡，本間，溝口，石川，長谷田の7氏を推薦，次点は斎藤，米沢，水崎の3氏），物性研人事選考協議会委員（長岡，中野，伊達，間瀬，松原の5氏を推薦），基研研究部員（渡部，井上，立木，森田，守谷の5氏を推薦，次点は確井，上村の2氏）の投票結果が報告された。

本年度の国際会議に派遣する学術会議代表としては低温国際会議に信貴豊一郎氏を半導体国際会議に植村泰忠氏を推薦した。

物性研究施設群については物研連につくられた作業委員会が開催された（11月26日），これには物小委側から佐々木，伊達，真隅，横田が，物研連側から小野周氏が出席した。小野氏は試案の主旨にたいして理解を示されたが，原案のままの形での制度化の困難性を指摘された。そして制度化の考えうる形態（例えば物性研究機構）やその問題点について意見交換をおこなった。また上記物小委側作業委員4名は文部省に手塚審議官をたずね，主旨の説明をおこなった（2月16日）。手塚氏からは種々の助言があり，また今日の学術研究体制にかかわる一般的な見解が述べられた。

第5回物性小委員会議事録

佐々木：研究施設群について他分野の人から20年という期間が長過ること、「基礎教育の空洞化」という表現には問題があるということ、期間が過ぎた後そのままその大学へ帰属させるのはあくまでも例外措置と考えるべきだとのコメントがあった。

斎藤：この案は他の分野の人に知られているか。

芳田：他の分野にも例がある。工学系では生産研に協力研究の拠点としての施設がすでにできている。

横田：岡崎の研究機構のような形になった時物性研はどうなるか。

芳田：そのような機構は必要だがそれだけではすまないと思う。

佐々木：物性研の将来計画との関連性を明らかにすることが必要である。

2. 財政報告（真隅）

物性研の総合班が減っているので支出は増える一方なのに収入が減ってきている。今年は学会に便乗したので楽だったが、来年以降は見通しが暗い。学会に便乗すると出費は半分ですむが、時期によってはこの方法がとれないのが問題である。

伊達：物小委の財源として総合班の科研費に依存することは今後あらためて研究者の合意が要だろう。それとともに総合班を増やす方策を物小委でも考えなければならぬ。

3. 物研連報告（金森）

新しい物研連の設置が4月に学術会議で決定される予定である。

IUPAP では Commission の統合が提案されていて9月の総会で票決される。現在の Semi-conductor, Magnetism, Solid State Physics の3 Commission を Physics of Condensed Matter という一つの Commission にし、その下に Subject division として Semi-conductor（光関係だけ）、Surface (LEED 等)、Amorphous, Liquid を置くというのが原案である。これにたいして Magnetism Commission では強い反対がある。

9月のIUPAP総会はStockholmで開かれるが、そのための出張旅費は1人分だけなので場所的・時間的に近い国際会議に出席されるIUPAP Commissionのメンバーは総会にも出席していただくことになる。Semi-conductor国際会議へ派遣する人の人選にはこのことが考慮されている。

芳 田：物小委でもIUPAP委員を優先することを考慮すべきである。

金 森：Magnetism, Semi-conductor, Statistical Mechanics, Low Temperature の四つはIUPAP委員を出すようにしたらよい。

4. 特定研究報告（横田）

現在“原子過程科学の基礎”，“高速イオン物性”，“乱れた系の固体物性”の三つが特定研究として提案されている。白鳥，勝木の二氏から物小委のメンバーも関係している特定研究の案が物研連に提出されていると聞いているが，物小委でどのような議論があったかという質問を受けた。勝木氏の意見は慎重にやって欲しいということだ。

佐々木：物小委が主体となって特定研究の立案，計画はやらないことにはなっているが，“乱れた系の固体物性”の提案については議論してほしい。計画全体で7億円，そのうち2/3が計画研究で残りが公募研究である。

横 田：物研連に提出した後だからむしろ報告と考えて欲しい。後で議題とする。

山 田：物小委としては積極的に特定研究を考えるべきで，そうしないと物性の地盤沈下は避け得ない。

審議事項

1. 百人委，物小委の選挙日程

金 森：新しい物研連が設置を要請してから選挙の方がよい。委員を届出るだけでは問題である。

三 輪：前回と同様，物研連に関係なく日程を決めてもよいのではないか。

芳 田：設置されるのが決まっているのだから作為的にする必要はない。

三 輪：物性グループの再登録の期間が短か過ぎてはいけない。

第5回物性小委員会議事録

以上のような議論の後、下記のような日程を決定した。

5月31日 物性グループ名簿再登録〆切り

6月20日(6月10日) 名簿発送, 物性グループ百人委員選挙公示

7月20日(8月10日) 百人委員選挙〆切

8月1日(8月15日) 百人委員選挙開票結果報告, 物小委選挙公示

9月20日 物小委選挙〆切

10月1日 物小委選挙開票結果報告

横 田: なお日程については事務局の都合などにより, 多少の変更がありうることはお認め頂きたい。^注)

2. 物小委選挙規定の改正

三 輪: 理論と実験の区別があいまいな時はどうするか。

横 田: 事務局一任としたい。物研連の委員を物小委に委嘱できる件については物小委の諒解事項として議事録にとどめておきたい。

以上の議論の後改正案を決定した。

3. 物性技術調査委員会

伊達委員より測定技術, 試料作製技術に関する調査委員会設置の提案があった。物性研および物小委が推薦した委員で構成する委員会を物性研に設ける。客員部門および科研費の活用で実現し, 物性研からいろいろな facility の便宜を計ってもらう。

芳 田: 内容がよく分らない。

伊 達: 例えば試料作製技術の遅れをとりもどす方法を考える。現在は情報, 技術が偏在している。

豊 沢: 実行のお膳立てをするのか。

伊 達: そうだ。現状を明らかにするだけでもよい。足で歩いて情報を集める。

芳 田：物性研，無機材研，分子研がまわりもちで世話をしている活動があるがあまり効果があるとは思えない。

伊 達：それ以前の問題で，必ずしも物性研でものを作れといっているのではない。各地でめばえた技術を encourage する窓口になって欲しい。

芳 田：客員部門として試料作製を考えたこともあるから物性研が面倒をみる可能性はないわけではない。ただ調査というのはどのようなことをするのか分らない。

真 隅：物性研が技術中心の将来計画を出したが，他の面での全国の技術レベル向上の足掛りを作ることにも協力してくれということではないか。

横 田：その結果をどのように生かすかがはっきりしない。

伊 達：委員の数は10名程度。半導体2名，磁性，誘電体，超伝導各1名 ………

斎 藤：現状をなんとかしたいということはよく分る。物小委が initiative をとるべき問題だ。

芳 田：日本にある芽を育てようとするなら特定研究“試料作製”のようなものを出す方向でやった方が効果的で物小委としての役割を果たすことになる。

伊 達：そのためにも基礎調査が必要だ。

目 片：例えば化学の分野では我々の知らない成果がたくさんあるので調査に意味がある。

佐々木：試料の qualification や evaluation を直接に手がけるような authority をつくるというのはまずいと思うし，今すぐ必要という訳でもない。むしろ伊達氏はそれ以前に問題があることを強調されるのではないか。

山 田：試料作りに犠牲的精神が必要なことが問題である。

横 田：継続審議にする。次回までにどうしたらよいか考えてきてほしい。

4. 特定研究

横 田：特定研究を物小委として積極的に出すべきだという意見もあるが，前回の議論は研究者が熱意をもって立てた計画を期待し，物小委主導型のものは考えないということであった。

芳 田：物小委だけが皆のために苦勞して種を考えることはないというのが本音で，研究者が積極的に発憤してくれるとよい。

第5回物性小委員会議事録

三 輪：特定研究が終っても何が達成されたかが問題だ。物小委主導型はやるべきでないと思っている。

芳 田：前の結論から一年位しかたっていないのだから簡単に豹変するべきでない。

豊 沢：次々と特定研究がでてくるのが望ましいが、discourage されるような議論が多いので困る。長期的にみて皆がうるおえばよい。

佐々木：特定研究は所詮特定の領域の問題。どこも万遍にうるおうようなものは困難だ。

斎 藤：出て来た計画を議論して推薦した方がよい。小人数で計画したのが物小委を経ずに出るのは望ましくない。

三 輪：“乱れた系の固体物性”は全をうるおすかどうか分らないが物性研究として適当なものの一つである。

横 田：“乱れた系の固体物性”は物性の分野として適当なテーマであり、必要性を認めてサポートする。

5. 研究施設群

横 田：今までの方向でこれからも進めることを承認してほしい。

三 輪：物性研究機構というのがこの問題とどのように関係するのか分らない。

芳 田：文部省の意図は不明だが、小野氏は原子核で考えられているような将来計画の調整の場として機構を考えているのではないか。

横 田：最初の計画通りにはいかないかも知れないが、趣旨を生かし得る道がひらけるのではないかとと思っている。

注) その後事務局長と委員長とが相談の結果選挙日程を()内のように変更することになった。その理由は百人委員の選挙規定の「附記」の主旨をより生かすためである。